

評価細目の第三者評価結果

(保育所)

I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

	第三者評価結果	コメント
I-1-（1） 理念、基本方針が確立・周知されている。		
I-1-（1）-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a	運営方針、保育方針、保育目標が明確に定められ、文書化されている。入園説明会、懇談会、季節の行事、職員研修、職員会議等において、職員および利用者への周知が図られている。また、ホームページを通じて地域にも公開されている。

I-2 経営状況の把握

	第三者評価結果	コメント
I-2-（1） 経営環境の変化等に適切に対応している。		
I-2-（1）-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a	行政機関および市主催の園長会議等を通じて、地域の各種福祉計画の内容を把握している。事業経営を取り巻く社会的動向についても把握し、経営状況、保護者のニーズ、保育コスト等のデータを継続的に分析している。
I-2-（1）-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	a	法人理事会や管理職会議において、入園率や保育コスト等の経営課題を継続的に協議している。それらの結果は毎月の職員会議において報告され、課題解決に向けてPDCAサイクルに基づく取り組みを進めている。

I-3 事業計画の策定

	第三者評価結果	コメント
I-3-（1） 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
I-3-（1）-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	a	理念・運営方針・保育方針を踏まえた5年から10年を見通した中・長期計画が策定され、毎年の園内研修において確認されている。明確な目標に対する現状分析が行われ、課題や問題点を明らかにしている。事業計画を実現するための予算案も盛り込まれている。
I-3-（1）-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a	5年から10年の中・長期計画を踏まえた単年度計画を策定しており、保育に関わる具体的な内容とともに、事業計画を実現可能とする予算案も盛り込まれている。年度終了時には、計画の評価・見直しを行っている。
I-3-（2） 事業計画が適切に策定されている。		
I-3-（2）-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a	全職員で評価シートを活用し、実施状況の把握や評価・見直しが行われ、次年度の具体的な事業計画に反映されている。多くの帳票類は一冊のバインダーに分類され棚に置かれ、職員がいつでも手取りやすい環境に整備されている。
I-3-（2）-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	a	事業計画は分かりやすくまとめられている。保護者に理解しやすい工夫として、入園説明会や保護者懇談会などで周知・説明が行われている。

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

	第三者評価結果	コメント
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a	月1回の職員会議（会議記録あり）や毎日の朝礼において、園児の課題や問題に対する解決策を検討し、職員全体で保育サービスの改善に取り組んでいる。また、園全体で実施する自己評価や今回の第三者評価の受審により、福祉サービス向上に向けた組織的な取り組みが機能していることが確認され、高く評価される。
I-4-(1)-② 評価結果に基づき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a	自己評価で得られた保育の評価や課題は、園内研修において職員全体で共有・分析され、改善すべき課題に取り組んでいる。また、評価結果の分析から導き出された具体的な改善計画についても、職員全員で実施している。

II 組織の運営管理

II-1 管理者の責任とリーダーシップ

	第三者評価結果	コメント
II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
II-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a	職務と役割を明確化した組織図を作成し、管理者の役割および責任範囲を提示している。さらに、管理者不在時の権限委任や緊急時の対応体制も整備されている。
II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a	保育所においてコンプライアンス（法令遵守）規定が作成され、担当部署および通報・相談窓口が設置されている。職員が法令遵守に取り組みやすい環境が整備されており、通報・相談窓口は相談しやすい体制として主任保育士が担当している。
II-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
II-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a	自己評価シートの集計や課題分析を通じて保育の向上に取り組んでいる。子どもの発達をテーマにしたドキュメンテーションを活用し、保育の質の向上に意欲的に取り組んでいる。また、利用者アンケートで得られた情報を職員間で共有し、保育の質向上に向けた指導力を発揮している。
II-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a	ICTを導入し事務作業の効率化を図ることで、経営の実効性向上に向けた指導力を発揮している。園長は人事・労務・財政の各視点から経営コストの最適化や業務改善に積極的に取り組んでいる。

II-2 福祉人材の確保・育成

	第三者評価結果	コメント
II-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
II-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a	有資格者を基準に応じて適切に配置するための人材育成計画を策定し、OJTや外部研修を組み合わせた育成プログラムを実施している。また、人材の定着に向けた取り組みや、職員が働きやすい職場環境の整備にも努めている。
II-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	a	人事管理規定や就業規則に基づき、公正な人事考課制度を運用し、「期待される職員像」を明確化した総合的な人事管理が行われている。有給休暇管理やキャリアパス規定も整備されており、職員が働きやすい環境の形成にも配慮されている。
II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
II-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a	職員の心身の健康と安全の確保のため、定期的な個人面談を実施し、本人の意向や課題・要望、有給休暇の取得状況などを聴き取っている。これらの情報を把握・分析し、改善策を講じることで、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
II-2-(3)-① 職員一人一人の育成に向けた取組を行っている。	a	「期待される職員像」を示し、個人ごとの育成目標を設定した計画的な人事育成に取り組んでいる。新年度、年度中間、年度末の3回の個人面談を通じ、知識や経験に応じた目標設定を行い、職員一人ひとりの継続的な成長支援を実施している。
II-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	a	職員の知識・技術水準、専門資格、経験年数、職務に応じた個人別のOJTおよび研修計画が実施されている。これに基づき、内部・外部研修が行われ、職員一人ひとりの資質向上を目的とした個人研修教育計画も整備されている。
II-2-(3)-③ 職員一人一人の教育・研修の機会が確保されている。	a	キャリアアップ研修への支援や資格取得支援制度（研修費貸付制度・費用補助、勤務調整等）が整備されており、職員一人ひとりの教育・研修目標が設定されている。個人別の研修進捗状況や成果の評価・分析も行われ、「職員別研修履歴」として記録・管理されている。
II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
II-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a	実習生研修・育成マニュアルが作成されており、実習指導専門員の指導体制のもと、計画的かつ体系的な実習指導が行われている。

II-3 運営の透明性の確保

	第三者評価結果	コメント
II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
II-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a	公共機関に対して運営規定、事業報告、財政報告を公開している。また、地域向けの情報公開として、園のホームページやパンフレットで理念や基本方針を紹介するとともに、SNSを通じて日常的な保育活動を社会・地域に発信し、園の存在意義を周知している。
II-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a	当保育園では、事業経営および運営規定の適正な確保を担保するため、内部監査を定期的に行い、法令遵守や公平性の確保をチェックしている。市町村による監査でも高い評価を得ており、透明性の高い適正な経営に取り組んでいる。

II-4 地域との交流、地域貢献

	第三者評価結果	コメント
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a	子どもと地域との関係は、地域と保育所の相互交流を促進することを目的として、町内会のお祭りに参加したり、ハロウィンなどの行事を地域住民と共に楽しんだりしている。これらの交流の取り組みやその記録は、適切に文書化されている。
II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a	ボランティア受け入れマニュアルを作成し、安全管理や個人情報保護の基本姿勢を明確化して受け入れ体制を確立している。その他、公立・私立中学生や卒園生の職場体験ボランティアも受け入れている。
II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
II-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	a	社会資源としての公共の関係機関の連絡先や資料は適切に保管されている。関係機関との連携状況は職員会議で報告されている。要保護児童に関する各連携機関の関わり方の記録は文書化されている。

Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a	地域の福祉ニーズを把握するため、市町村主催の研修に参加し、保育ニーズを分析している。入園希望の保護者や保育を必要とする家庭には、保育園の情報や公開保育の日程等をホームページやSNSで発信している。また、子育て支援として、地域の親子向けに「絵本の世界に入り込んでみよう」と題したイベント講座を開催し、保育所としての機能を地域に公開している。
Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等に基づく公益的な事業・活動が行われている。	a	高齢者施設訪問、若者の職場体験、地域向けの絵本イベント開催などの活動を通じ、地域のニーズに対応した取り組みを行っている。また、災害時の備蓄品の開放を町内会に提案することで、公益的な活動にも取り組んでいる。

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

	第三者評価結果	コメント
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した福祉サービス提供について共通の理解をもつための取組を行っている。	a	倫理規定に基づく福祉サービス提供の基本姿勢が明示されている。利用者の尊重や子どもの人権尊重の取り組みは、「期待される職員像」で明確化されている。職員自身のセルフチェックや設置者との面談、職員会議の場においても、保育サービス提供に関する共通理解を図る取り組みが行われている。
Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	a	個人記録やプライバシーに関する資料は、鍵をかけた棚で管理されている。プライバシー保護、不適切保育、児童虐待防止に関するマニュアルも整備され、職員間で共有されている。入園時には「園のしおり」において、プライバシー保護の取り扱いを保護者に説明し、同意を得ている。
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	a	ホームページやSNS、入園案内、公開保育、園見学などを通して、当園の特性や保育内容に関する情報を積極的に発信している。電話での問い合わせや入園希望者に対しては、複数の保育園の中から自分の希望に沿った園を選択するための参考資料となるよう、丁寧かつ分かりやすい対応を心がけている。
Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更に当たり利用者等に分かりやすく説明している。	a	入園後の保育開始時には、「園のしおり」や説明会を通じて、重要事項や園生活について保護者に分かりやすく説明している。転園など保育サービスの変更時には、保護者の意向に配慮した説明を行い、同意書を取得するなどの対応をしている。
Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあたり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行っている。	a	転園する児童については、保護者の同意のもと、転園先の保育園や福祉施設へ必要な情報を適切に提供し、保育の継続性を確保するとともに、施設間の円滑な連携に配慮している。また、卒園や転園後においても継続して相談に応じる体制を整え、子どもと保護者が安心して新たな環境に適應できるよう、長期的な視点に立った支援およびサポート体制を整えている。
Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a	保護者が日常的に相談できる環境を整え、公開保育や定期的な利用者アンケート、保護者会の開催等を通して多様な機会を用意し、意見を聴いている。そこで出た意見は職員会で共有され、保育に反映されている。保育の質を高めるため、意見や調査結果の分析・検討を行う担当部署があり、具体的な保育の改善につなげている。

Ⅲ-1-（4） 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
Ⅲ-1-（4）-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a	苦情解決マニュアルに基づき、受付担当者・解決責任者・第三者委員からなる苦情解決体制が適切に機能する仕組みを整えている。お迎え対応を行う玄関の壁には、苦情解決の流れを示した図表を提示し、保護者がいつでも確認できるようにしている。受付窓口の担当者は主任保育士が務めている。意見箱については、保護者に不利益が生じることのないよう、管理者の目の届かない場所に設置している。
Ⅲ-1-（4）-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	a	日頃より保護者とのコミュニケーションを図り、気軽に相談しやすい信頼関係を保護者と職員で築いている。また、定期的に保護者アンケートを実施し、保護者による運営委員会の開催等を通して、利用者満足度向上に向けた取り組みを行っている。担当部署は、役員会で出された意見を職員会に報告し、検討・分析を行っている。
Ⅲ-1-（4）-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a	保護者との保育連絡ノートや日頃の送迎時のやり取り、個人面談、個別指導を通して、保護者の要望や意見が出やすいよう配慮している。保護者の意見や要望は迅速に職員間で共有され、園全体で把握できるようにしている。苦情解決マニュアルは策定されており、「相談相手を選べる」ことは重要事項説明書に明記されている。
Ⅲ-1-（5） 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
Ⅲ-1-（5）-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a	事故発生時の対応や安全確保のための危機管理・安全管理マニュアルは策定されている。ヒヤリハット報告書や事故情報の読み合わせ等は、職員会や職員研修で定期的実施している。保育に関わる設備や遊具の安全点検は月に1度実施し、文書にて記録している。
Ⅲ-1-（5）-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a	感染症予防および発生時対応マニュアルに基づき、担当部署などの責任と役割の体制は整備されている。日頃の衛生管理は季節や保育の形態に応じて職員に周知している。感染症が発生した場合は、速やかに保護者へ一斉通知や配信を行っている。
Ⅲ-1-（5）-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	a	危機管理・安全管理マニュアルに基づき、さまざまな災害を想定した訓練や、子どもへの事前事故教育も毎月実施している。災害時用防災カードを用いた引き渡し訓練を行い、保護者・職員に安否確認体制の周知を図っている。災害時の落下物を避ける工夫として、保育室内に遊具などを置かないようにしている。食料の備蓄や医療品、ミルクは3日分をストックしている。

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

Ⅲ-2-（1） 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
Ⅲ-2-（1）-① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	a	「業務標準マニュアル」を策定するとともに、職員会議において常に標準的な保育サービスの内容や実践状況について検証を行っている。また、「コードモン」を活用し、全体的な保育計画や年齢別年間計画、個別の保育目標の設定を実施し、適切に文書化している。さらに、PDCAサイクルに基づいた標準的な保育を実践し、継続的な改善と質の向上に努めている。
Ⅲ-2-（1）-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a	園長の指導の下、定期的な職員会議において、保育目標の設定、実施状況の確認、保育の見直し、改善策の検討を行っている。標準的な実施方法としては、「コードモン」において保育の見直しに関するPDCAサイクル（計画、実行、確認、改善）の取り組みは確立している。

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な福祉サービス実施計画（個別支援計画）を適切に策定している。	a	入園前の聞き取りにおいて、子どもの身体状況や保護者の生活状況を把握し、子どもと保護者のニーズを明らかにしたアセスメントを実施し、職員間で共有している。アセスメントで得た家庭調査票の情報は児童票に記載され、入園後の個別指導計画に反映されている。
Ⅲ-2-(2)-② 定期的に福祉サービス実施計画（個別支援計画）の評価・見直しを行っている。	a	各指導案の評価・見直しが定期的な会議で行われ、PDCAに基づき次期計画が策定されている。見直された次期計画案は、園長・主任の確認のもと、職員全体で立案され実行される。
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する福祉サービス実施状況（個別支援計画）の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a	ICT「コドモン」の活用により、保育サービスは統一した様式で記録・保管されている。日誌・週案・月案等は、コンピューターネットワークや記録ファイルを通じて職員間で共有する仕組みが整備されている。
Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a	個人情報保護規定に基づき、利用者の記録の作成・保管・保存・廃棄および情報提供に関する規定が定められている。利用者の成長記録や家庭の情報などの書類は、鍵付きキャビネットで安全に保管されている。

A 個別評価基準

A-1 保育内容

		第三者評価結果	コメント
A-1-(1) 全体的な計画の作成			
A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。	a		全体的な計画は、当保育園の理念・保育方針・目標に基づいて作成している。また、前年度の振り返りと見直しを踏まえて全体的な計画および各種指導計画案を策定している。それらに基づき、子ども一人ひとりの心身の発達や個々の状況に応じた個別計画を作成している。より良い保育を意識しながら、計画的かつ継続的な保育を実践している。
A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開			
A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地良く過ごすことのできる環境を整備している。	a		子どもが心地よく、安全に過ごせるよう、室内の温度・明るさ・清潔さに配慮している。子どもが長時間過ごす環境を継続的に整備している。手洗い場やトイレの設備は子どもが使いやすいように整えられている。また、食事や睡眠のための快適な生活空間も確保されている。
A-1-(2)-② 一人一人の子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	a		発達や家庭環境、文化・習慣の違いに配慮した個別計画を作成している。その子に合った関わりを心掛け、言葉が十分に使えない乳児には保育士から積極的に語りかけ、安心して気持ちを表現できるように取り組みを行っている。
A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身に付けることができる環境の整備、援助を行っている。	a		自主性を尊重した個別保育で、子ども一人ひとりの発達や意欲、動きのペースの違いを尊重し、基本的な生活習慣が身につくよう援助を行っている。「できたこと」を認め、自信につなげる取り組みがなされている。
A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a		遊びの中での気づきや発見を第一に考え、子どもの興味を尊重している。また、公園等の自然に触れ、挑戦する心や表現ができる環境を整えている。ドキュメンテーションを取り入れ、「自分で！」という気持ちを大切に、写真や記録で子どもが発した言葉や育ちを「見える化」している。子どもの主体性や発達を促す記録手法を取り入れ、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。

A-1-(2)-⑤ 乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	保育士の声掛けやふれ合いを通して、子どもの表情や身振り、サインを丁寧に読み取り、欲求や情緒に応じた関わりを行っている。子どもと保育士の愛着関係が築けるよう配慮し、生活の場が学びの場となるよう環境設定も整備されている。
A-1-(2)-⑥ 3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	子どもたちの主体性を尊重し、発達段階に応じた活動を促す取り組みが行われている。食事や排泄、着脱などの生活習慣が身につく環境を整えている。子どもたちが円滑な人間関係を築けるよう、保育士は言葉かけを意識して援助している。
A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		該当なし
A-1-(2)-⑧ 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	必要に応じて巡回指導や専門機関と連携するよう努めている。職員間で障がい児の情報や個別指導案を共有し、子どもの発達に応じた関わりができるよう、また、心に寄り添った保育が提供できるよう取り組んでいる。障がいのある子どもは開園以来入園していないが、保育士は必要に応じて、子どもが安心して生活できる体制を整えている。
A-1-(2)-⑨ それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	子どもが安心してゆったり過ごせるような環境を整え、職員同士が共通理解を持った保育がなされている。長時間保育が必要な家庭の子どもには情緒の安定に配慮した関わりや、保護者との連携をとる体制を整えている。水分補給に留意し安全にすごせる環境整備に努めている。
A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。		該当なし
A-1-(3) 健康管理		
A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。	a	入園前に児童の健康状態や予防接種等の情報を聞き取り、職員間で共有している。入園後は連絡帳や登園・降園時の観察を通じて、子どもの健康状態を確認している。ケガが発生した場合は職員間で情報を共有し、保護者に連絡を行う。食事中の事故やSIDSに関する情報を集め、園全体で知識を共有している。また、午睡中の見守りや日常の健康管理に努め、体調不良やケガの際には保護者と丁寧に連携を図っている。
A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	a	内科検診・歯科検診は年2回実施し、その結果は保護者へ適切に伝えている。診断結果を記録するだけでなく、保護者と情報を共有し、児童の健康管理に活かしている。また、「歯磨き」の歌や制作物を通して分かりやすく子どもたちに伝え、ごっこ遊びの中で健康への意識を持てるよう工夫している。
A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a	アレルギー疾患生活管理指導票およびアレルギー対応マニュアルに基づき、職員間で的確な対応方法を共有している。また、アレルギー疾患や慢性疾患に関する研修を実施し、職員が必要な知識や情報を得られる体制を整えている。

A-1-(4) 食事		
A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a	盛り付けの工夫や行事食を取り入れ、子どもたちの「食」への関心を高めている。野菜の苗植えや収穫、料理体験を通して、食を楽しむ取り組みを行っている。また、提供した食事については、コドモンを通して保護者に写真で知らせている。
A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a	HACCP（危害分析重要管理点）を取り入れ、安全管理に配慮している。保育士・栄養士・保護者と連携し、子どもの発達に応じた食事を提供している。食育ではドキュメンテーションを活用し、トマトの生育や子どもたちの活動を写真やコメントで記録している。また、アレルギー食の代替食も用意し、安全な食事の提供に努めている。

A-2 子育て支援

		第三者評価結果	コメント
A-2-(1) 家庭との緊密な連携			
A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	a		連絡帳の記載や登園・降園時の対応を通して、園生活や活動の様子を保護者に伝えている。個別面談や保護者アンケートで得られた情報は職員間で共有され、子どもの園生活が充実するよう、家庭と保育園が連携している。また、毎年6月に実施している「給食参観」を通して、直接保護者と関わる機会を設けている。
A-2-(2) 保護者等の支援			
A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a		毎日の連絡帳や登園・降園時の対応を通して、その日の児童の様子を保護者に伝えている。子どもの成長に共感し、保護者の気持ちに寄り添いながら、安心して子育てができるよう支援している。保護者との信頼関係を築き、家庭の状況を聴き取り、園全体で必要な支援を提供する体制を整えている。
A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	a		些細な変化に気付くよう、子どもの言動や表情を注意深く観察し、虐待につながる可能性のある情報を職員間で共有している。普段から虐待に関する知識と意識を持ち、保護者と関わるようにしている。虐待が発生した場合の対応方法に関する研修は、園内で実施している。個別指導計画には、プライバシーに配慮しつつ、保護者からの相談内容や行政・関係機関の情報を共有している。

A-3 保育の質の向上

		第三者評価結果	コメント
A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）			
A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a		日々の保育について保育士同士で振り返りや意見交換を行い、全員参加の職員会議を通じて保育の質の向上に取り組んでいる。職員間の情報共有と共通理解を大切にされた組織的な実践が行われている。また、自己評価を実施し、保育士としての課題を明確にしながらスキルアップに努めている。さらに、積極的に研修へ参加し知識の習得を図るなど、専門性の向上に取り組んでいる。